

1. 略歴

1989年4月	東京大学教養学部文科Ⅲ類入学
1991年4月	東京大学文学部国史学専修課程進学
1993年3月	東京大学文学部国史学専修課程卒業
1993年4月	東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻修士課程進学
1995年3月	東京大学大学院人文科学研究科日本史学専攻修士課程修了
1995年4月	東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻（日本史学）博士課程進学
1997年7月	同 博士課程（日本史学）中退
1997年8月	東京大学史料編纂所助手
2007年4月	東京大学史料編纂所助教
2009年1月	博士（文学）学位取得（東京大学）
2012年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2021年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本中世史

b 研究課題

中世武家政権の研究、14世紀政治社会史の研究

c 概要と自己評価

もっぱらモンゴル襲来を中心に鎌倉時代後半の外交・政治史研究に取り組んだ。また別に北条時頼政権について検討する機会を得たことにより、13世紀半ばから一貫する朝幕関係を見通す視座を得ることができた。今後は14世紀へと視野を拡大し、室町幕府成り立ち・南北朝期の政治史研究に進んでいきたいと考えている。また共同研究の一環として『平家物語』に取り組み、歴史学の立場から文学作品にアプローチする方法を模索した。さらに古記録から古文書の作成や授受を読み解くことで、古文書学の新たな一面を開拓することを試みた。

d 主要業績

(1) 著書

編著、高橋典幸、『中世史講義【戦乱篇】』、筑摩書房、2020.4

(2) 論文

高橋典幸、「鎌倉幕府と朝幕関係」、『日本史研究』、695、37-59頁、2020.7

(3) 書評

河内祥輔、小口雅史、M.メルジオヴスキ、E.ヴィダー編、『儀礼・象徴・意思決定 日欧の古代・中世書字文化』、思文閣出版、『法政史学』、96、87-94頁、2021.9

榎本涉、『僧侶と海商たちの東シナ海』、講談社、『山川歴史PRESS』、4、24頁、2021.10

(4) 解説

高橋典幸、「尊経閣文庫所蔵『建治三年記』解説」、『尊経閣善本影印集成 71 公秀公記 実隆公記 建治三年記』、八木書店、257-264頁、2020.11

高橋典幸、「治承・寿永内乱と佐竹氏」、『古文書研究』、90、128-129頁、2020.12

高橋典幸、「解説 人物を通じて荘園を理解する」、工藤敏一『荘園の人々』、筑摩書房、230-242頁、2022.1

(5) 学会発表

国内、高橋典幸、「小早川氏と楽音寺」、科研費（B）「西遷・北遷東国武士の社会的権力化」（課題番号19H01313、研究代表：田中大喜）第2回研究会、国立歴史民俗博物館、2020.8

(6) 啓蒙

高橋典幸、「総論」、高橋典幸編『中世史講義【戦乱篇】』、筑摩書房、257-270頁、2020.4

高橋典幸、「文永・弘安の役」、高橋典幸編『中世史講義【戦乱篇】』、筑摩書房、71-87頁、2020.4

高橋典幸、「源実朝下文 和田合戦に見る将軍の権威」、日本古文書学会編『古文書への招待』、勉誠出版、109-112頁、2021.1

高橋典幸、「足利尊氏御判御教書 年号から浮かび上がる尊氏の決意」、日本古文書学会編『古文書への招待』、勉誠出版、128-130頁、2021.1

高橋典幸、「文永の役」「弘安の役」「嘉元の乱」「正中の変」「御家人」「侍所」「守護」「地頭」「御恩と奉公」「徳政令」「軍事制度」「対外関係」、田中大喜編『図説 鎌倉幕府』、戎光祥出版、2021.6

(7) 会議主催(チェア他)

国内、「第118回史学会大会」、実行委員、日本中世史部会、東京大学、2020.11.8

国内、「第119回史学会大会」、実行委員、日本中世史部会、東京大学、2021.11.14

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

講演、秋田県生涯学習センター、「鎌倉～南北朝期の佐竹氏」、2020.10、「佐竹文書と南北朝時代」、2021.10

非常勤講師、九州大学(文学部)、「日本史学講義/日本史特論」、2020.12

非常勤講師、放送大学、「日本史のなかの神奈川」、2021.4

(2) 学会

国内、日本古文書学会、学術雑誌編集長、2020.4～2021.3、理事、評議員、2020.8～

国内、日本歴史学会、理事、評議員、2020.7～